

北杜市立図書館
適正配置等検討に関する
提言書

令和5年 月 日
北杜市立図書館適正配置等検討委員会

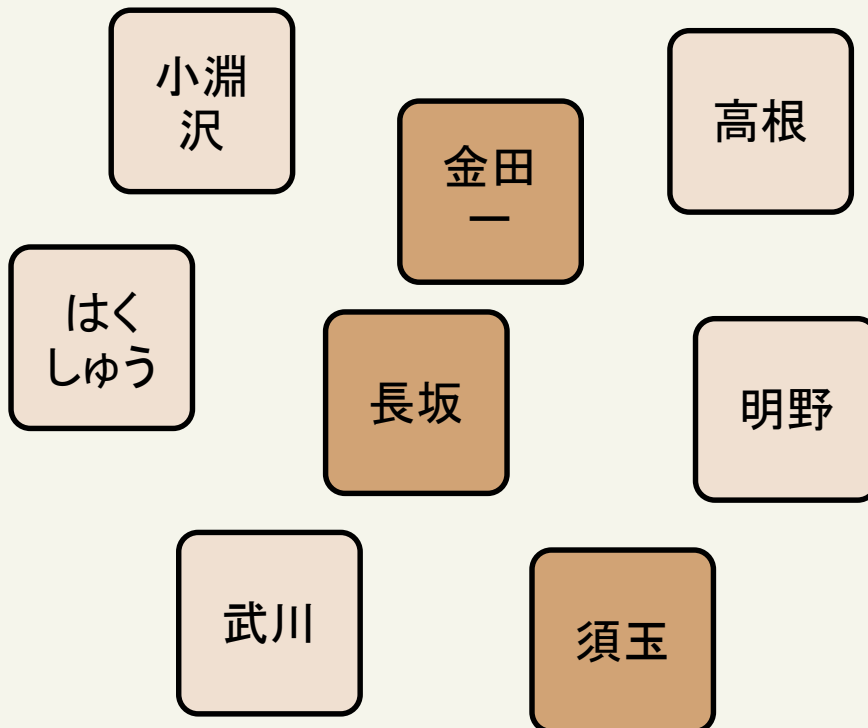
はじめに

本委員会は2022年3月に北杜市が示した「新・行政改革大綱」での方針を受けて、「第3次北杜市総合計画」に示された北杜市の将来像を達成し、さらに将来にわたって北杜市民が学びあい、楽しみ、そしてお互いを尊重しながら暮らしていく基盤として、北杜市立図書館が活動しつづけることを目標として、将来的な在り方を検討した。

第1回から6回までの活発な議論をまとめ、ここに提言を行う。

新しい北杜市立図書館の在り方

現在の8館すべてに『北杜コミュニティ・ commons』機能



- ・図書館サービスポイント
- ・地域活動拠点
- ・居場所機能
- ・図書館の利用に障害がある人へのサービス

・濃色の3館は他施設に比して広いこと、駅に近いこと、他の小規模施設に比較的近い

北杜コミュニティコモンズ

全施設共通の目的



図書館サービスポイント



地域活動の拠点



児童・生徒・大人の居場所



図書館利用に障害がある人へのサービス

コミュニティ・コモンズの機能

図書館サービスポイント

- 貸出・返却
- 読み聞かせなどの児童サービス
- 複写物などの受け取り
- インターネットの利用

地域活動の拠点

- 多目的スペース(ラーニング・コモンズ)の活用
- 交流・学習プログラムの実施(現在行われているボランティア活動など)
- 地域課題を解決するための情報提供(資料提供等)

児童・生徒・大人の居場所

- 児童・生徒・大人の居場所スペースの提供
- 学習支援プログラム(例えば学校での学習を補完するようなプログラム)の提供
- ボードゲーム、バーチャルリアリティなど新しい体験サービスの提供

図書館利用に障害がある人へのサービス

- 情報の入手にさまざまな困難のある人のサポート
- さまざまな障害に対応した資料作成・サービスの拠点機能

図書館機能を付加する施設

資料の収集・保存

- テーマを分担して幅広い資料の収集
- 電子図書館機能の充実と提供
- 地域資料の収集・保存
- 地域学習教材の開発

資料情報流通の拠点

- 翌開館日までに各サービスポイントで資料が受け取れる体制
- オンラインでの予約
- オンラインレファレンス
- 各コミュニティコモンズでのイベント開催
- 学校、学校図書館との緊密な連携、サービスポイントとして

コミュニティ・コモンズへの変更点

図書館サービスポイントのために

- 資料の一時置きのためのスペース
- インターネットサービスのためのパソコン(プリントアウトは要検討)
- 新聞、雑誌等の閲覧スペース

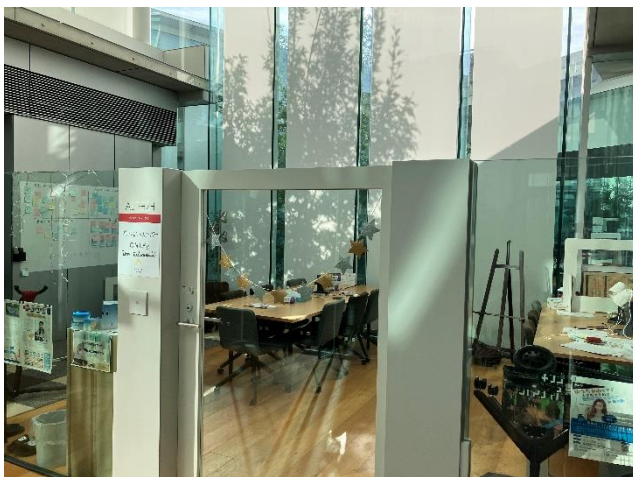
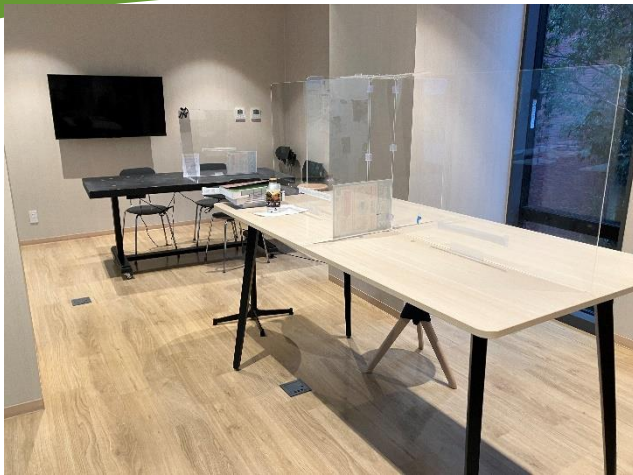
居場所機能のために

- 書架の大幅な整理
- 可動式椅子、机等の整備(大きなスペースをとれるようにする)
- 無線LAN、電源等の整備

子育て支援機能のために

- 現行の読み聞かせスペースなどは維持

多目的スペースのイメージ



新しい図書館職員の役割

- 北杜市全体でバランスのいい資料収集
- コミュニティ・コモンズを含めたさまざまな場所でのアウトリーチ活動（図書館以外の場所で図書館サービス・イベントをおこなう活動）
- 地域資料の収集、保存とデジタル化
- 地域学習教材の開発（博物館学芸員や地域住民との連携が必須）
- 情報リテラシー教育

コミュニティ・コモンズの運営

- コミュニティ・コモンズの目的を地域住民で共有する
- さまざまな交流プログラムの企画、実施等を住民が主体的に実施する（自治体は情報提供などの支援）
- 長期的には施設管理運営を地域住民に任せることも視野
- 社会教育施設や生涯学習施設との連携が必要

北杜市の役割

- 「図書館の利用に障害がある人へのサービス」は、障害者差別解消法により自治体の責務として合理的な範囲でおこなうことが義務付け
- 個人情報、プライバシー、図書館利用情報の保護
- 「官製ワーキングプア」を生み出さないような雇用体制
- 住民への図書・情報サービスのための予算確保（電子図書館等デジタル形態の情報サービスが重要）
- コミュニティコモンズへの支援

将来に向けての提言

- 地域資料の収集、保存や、図書館活動が活発になればなるほど、既存施設が手狭になっていく
- 財政状況をみながら、将来既存施設の更新計画を作成する中で、図書館活動のデジタルシフトを進めたとしても地域資料の保存とその活用場として、比較的規模の大きい（おおむね床面積2,000㎡程度）複合型施設への更新が必要と提言する。

おわりに

- 本委員会は地域の教育に関わるさまざまな方と学識経験者をメンバーとし、北杜市民、特に将来を担う子どもたちの視点を中心に、北杜市立図書館8館が今後どうあるべきかについて活発な議論をおこなった。
- 議論の中では市内で活動されているボランティア団体からも提言やご意見を伺った。
- さまざまな意見がある中で、今後のコミュニティ・コモンズで「何をしたいか？」を考えるのは、地域住民自身である。コミュニティ・コモンズを活用して北杜市が住んで楽しい街になっていくことを期待して本委員会の議論のまとめとしたい。

北杜市立図書館適正配置等検討委員会 開催日

- 第1回 令和4年7月28日
- 第2回 令和4年10月13日
- 第3回 令和5年1月12日
- 第4回 令和5年2月20日
- 第5回 令和5年3月20日
- 第6回 令和5年7月6日

第1回委員会議論のまとめ

- 第1回委員会は委嘱および委員の紹介、北杜市が置かれている現状、総合計画および行政改革大綱について説明を受けた。

第2回委員会議論のまとめ

- メール便の重要性
市内の図書館間を公用車で配送するシステム（メール便）により図書館の連携が機能している。
近くで本を受け取れるメール便の活用や、本の宅配も一つのアイデア。
メール便の分析が必要。
- 予約貸出の浸透
予約して自分のアクセスポイントで受け取ることが普及している。
- 学校図書館と市立図書館の連携
ブックトーク、ビブリオバトル、蔵書の団体貸出など学校と市立図書館の連携が図られている。
学校の読書教育においては、司書の役割が重要。

第2回委員会議論のまとめ

- 情報リテラシーの重要性

これから社会に出る子供達が、自分が必要とする情報を見極める能力を作るためには、本やインターネットでの情報を見極める力が必要。

- 図書館としての機能

床面積400㎡に満たない図書館は、サービスを一つの図書館で完結することが難しい。

生涯学習意識調査アンケートでは、図書館の再編等により生涯学習の場所がなくなること、高齢者の移動手段が課題。

自宅に居ながら又は地域の小さなサロンなどで学び直しができる環境が必要。

公共交通を今以上に整備することは難しいため、サービス側が自宅に近寄る考え方が妥当（非来館型図書館の検討）

第2回委員会議論のまとめ

- 小中高生の利用率低下の要因と方策

原因の一因は交通手段。将来的には、図書館に行かなくても利用できるような体制（インターネット等）が必要。

若い世代には、ライトノベルやマンガを中心にした電子図書館の導入。また、高齢者もインターネットを利用しており、移動の必要がなく、利用時間も問わない電子図書館が有効であり、将来的に導入を検討する。本の購入は、調べ学習や何人かで集まって利用する本の充実で、電子図書館とのすみ分けができる。

若者の1日（24時間）をどう使っているかの分析が必要。

現在の8館に歩いていける人はわずかであり、大部分が自動車等を利用。

第2回委員会議論のまとめ

- 特色ある図書館づくりの必要性
8つのすべての図書館に同じような本が置かれており、今後は特色を持たせることが必要。
ボランティアも一つの図書館に集まっても良い。
- 小・中・高生、大人の居場所づくりの必要性
図書館は、学習する場や居場所的な役割を担っており、それが保護者や学校の負担軽減につながる。また、図書館でなかったとしても、静かに学習できる場所が必要。
大人の学習スペースなど居場所も必要。
図書館が駅の近くにあると中高生が帰宅する際に居場所や学習スペースとして活用できる。

第2回委員会議論のまとめ

- 利用者の動きから見た図書館
8つの図書館の利用者の動き（人数ではなく比率）として、当該地区以外の利用者が多い図書館は、利用者が魅力を感じている。また、700㎡～1,000㎡くらいが図書館らしさを保つ広さである。
- 先進的な図書館の機能
2015年以降は、図書館単体で作られていない。市民の活動や体験の場所、子供から大人まで学習できるスペースの確保、市民サークルが活動する人や地域に役立つスペースが用意されている。
- 当委員会の役割
図書館という名前が変わってもその場所で、何ができるのかを考えることが役割で、その建物をどのように活用していくかを考えるのは、あくまでも住民であり、それを支援するのが自治体。

第3回委員会議論のまとめ

- 小中学生に1人1台タブレットが配布され、タブレットやスマートフォンが生活習慣の中で利用頻度が大きくなっている。
- 紙の本を読むだけが読書ではない。特に中高生や大学生は、タブレットやスマートフォンでの読書に変化している。
- 市内の小中学生の読書時間が多い。その要因の一つとして、「朝読」や「家読」など、学校等での取組があり、成果をあげている。この水準を維持していくべき。
- YouTubeを活用している図書館が増えている。また、市内の子供たちには、動画視聴など、様々なコンテンツに触れることができる環境整備が必要。
- 家庭の中で家庭学習の場所がない子供のために、自治体や地域が場所を提供することが必要。

第3回委員会議論のまとめ

- メール便の運行経路に学校図書館を加えてほしい。また、地元の人が使う場所（ショッピングセンター）にブックポストなどのポイントを増やしていくことも方法の一つ。
- メール便の体制は、最低限の今のネットワークを残すことが大事。検討する際は、住民の利用頻度、コストなどバランスよくすることが大切。
- どの自治体も図書館サービスをくまなく行っていくべきか悩んでいる。本を渡す必要があるのか、ないのか、という段階まで来ている。
- 図書館は、2つの意味があり、読書施設と情報施設としての役割を果たしている。

第3回委員会議論のまとめ

- 図書館の今後の方策、図書館の機能について、①地域資料の網羅的収集、②地域の活性化、③就学前の乳幼児に対する読書の推進及び読書の機会の提供を加える。
- 次回会議で、ボランティア団体の事例を聴く。
- 次回会議では、今後のあり方の原案を示していく。また、その原案の中では、具体的な数や場所についても示していく。

第4回委員会議論のまとめ

- 図書館ボランティアの活動内容を取りまとめた。
- 図書館ボランティア同士のつながりもあり、地域と密着した活動を行っている。
- 第3回の意見をもとに、これからの北杜市図書館のイメージは、「図書館として機能強化する施設」と「図書館機能を残しながら市民交流等を行う施設」に区分。
- 「図書館として機能強化する施設」のイメージは、「地域資料の網羅的収集」「調査探求的な図書の収集」「レファレンスの充実」「小中高生高齢者のための宅配サービス」「学校図書館との連携」「就学前の乳幼児に対する読書の推進及び読書の機会の提供」「学校図書館へのメール便の検討」など。

第4回委員会議論のまとめ

- 「図書館機能を残しながら市民交流等を行う施設」のイメージは、「学習スペースの確保」「地域の活性化や生涯学習の拠点となるような交流スペースの確保(小中高生等の居場所、ボランティアの活動、飲食スペース)」「図書館資料の予約貸出」など
- 「共通した機能強化」のイメージは、「土日、祝日を含めたメール便運行」「利用者のアクセスポイントの充実策(郵便局・商業施設等)」「電子図書館の導入」「自動貸出機の導入」「民間データベースによる情報提供」など

第5回委員会議論のまとめ

- これまでの議論を踏まえ、新しい北杜市図書館のあり方として、8館すべてに、コミュニティ・ commonsの機能を持たせる。
- 北杜市コミュニティ・ commonsは、「図書館サービスポイント」「地域活動の拠点」「居場所」「図書館の利用に障がいのある人へのサービス」の機能を持たせる。
- 図書館の機能を充実させる館は、他施設と比較して面積が広い、駅に近い、他の小規模施設に近い、金田一春彦記念図書館、ながさか図書館、すたま森の図書館とする。
- 新しい図書館員の役割として、「バランスの良い資料収集」「アウトリーチサービス」「地域資料の収集保存とデジタル化」「情報リテラシー教育」等を検討。

第5回委員会議論のまとめ

- コミュニティ・コモンズの運営は、地域住民を中心に考え、地域住民が活動しやすい環境となるよう、市が支援していく。
- 職員の雇用体制をより充実させ、障がい者サービスや個人情報保護等に対応する。
- 施設の維持管理は、今後長期的な観点から、更新計画を作成する中、施設の老朽化や広さ、施設の役割や目的、社会とのズレを解消していく。